

都子さんメモリアル

あなたの心に

曲 川崎祥悦 詩 坂本(大山)都子

山のいぶき

曲 川崎祥悦 詩 松前幸子

都子さんメモリアル 愛とヒューマンのコンサート実行委員会

2004.11.7 森のゆめ市民大学・コミュニティタイム

本日は、市民大学コミュニティタイムの時間をお借りして、皆さんに二つの合唱曲をお聞きいただきます。どちらも川崎祥悦さんの作品です。「山のいぶき」は川崎さんの代表作であり、合唱コンクールなどでも定番の曲です。「あなたの心に」は出来たばかりの曲です。1週間前、ここ天神山交流館で行われた第4回の「都子さんメモリアルコンサート」のために作曲され、市民有志の合唱団によって初演されました。

2004年11月7日、魚津市天神山交流館において、「森のゆめ市民大学」の第3期・第5回講座が、江川紹子さんを講師に招いて「夢の探し方」という演題で開催されました。この日の朝、江川さんを慰霊碑にお連れしました。江川さんは遺体発見直後、慰霊碑建立直後など、数回当地を訪れたことがあるとのことですが、舗装が慰霊碑の先まで伸びていることに驚いておいででした。午後1時から、講義の前に、アトラクションの「コミュニティタイム」で、有志合唱団による「あなたの心に」を発表しました。約500人の参加者が歌声に耳を傾けました。合唱に先立って、メモリアルコンサートの由来、この曲ができるまでの経緯などを「パワーポイント」と液晶プロジェクターを使ってプレゼンテーションしました。この資料は、そのとき使用した映像と解説をまとめたものです。

都子さんメモリアル



- 1989.11.04 事件発生
- 1995.09.07 遺体収容
- 1997.09.07 慰霊碑除幕
- 1999.08.19 第1回メモリアルコンサート
- 2002.08.24 第2回メモリアルコンサート
- 2003.08.20 第3回メモリアルコンサート
- 2004.10.31 第4回メモリアルコンサート

「都子さんメモリアル」って何だろう 魚津の方ならご存知でしょうが、今日は市外からもたくさんお見えになっています。ざっと振り返ってみましょう。

15年前、坂本堤弁護士と、その妻都子さん、長男龍彦ちゃんが行方不明になるという事件がおきました。6年近く経過したあと、オウム教団の犯行とわかり、魚津市の僧ヶ岳山中で都子さんの遺体が発見されました。

その後、坂本弁護士一家の没後10年を機会に、追悼コンサートが始まりました。ここに記したように、99年から先週(10/31)のコンサートまで、4回を数えています。

都子(さとこ)さん フリガナがないと読むのが難しい名前です。「山里に住めば山里の心を都へ伝え、都に住めば都の思いを山里へ運ぶ、そのような働きをする子であることを願って」命名されたそうです。

1999.8.19 第1回都子さんメモリアルコンサート



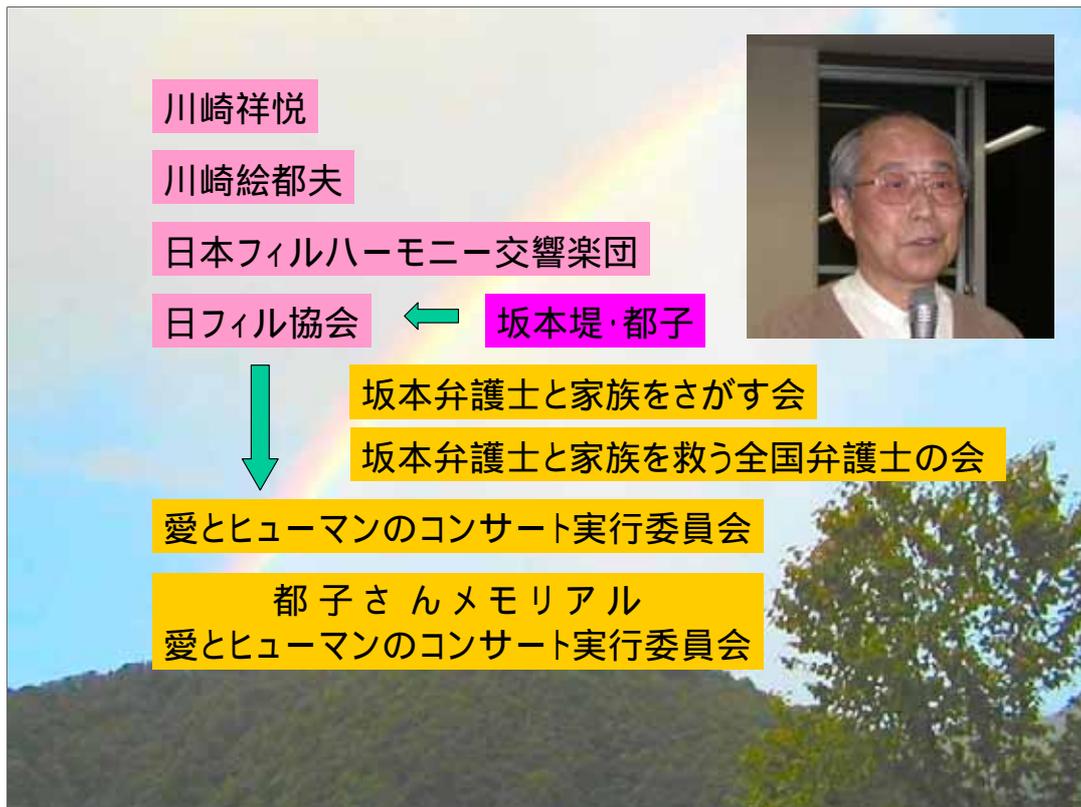
第1回のコンサートが終わって、日フィルの方や、坂本弁護士の同僚の方、都子さんのご両親などからお話を聞くまでは、なぜ弁護士さんの家族と音楽とが結びつくのか分かりませんでした。

写真は生前、堤弁護士さんが使っていたヴァイオリンと都子さんが使っていたフルートです。真中にあるのは龍彦ちゃんのおもちゃです。都子さんはブラスバンドでフルートを吹いていました。堤さんは4歳からヴァイオリンを習っていました。

堤さんのお父さんはヴァイオリンが好きで、名前をヴァイオリンを意味する「提琴」の「提」にしようとしたが、その漢字が名前に使えなかったため、土へんの「堤」にしたとのこと。

しかし、第一番に二人をむすびつけるきっかけになったのは音楽ではなく障害者を支援するボランティア活動でした。弱い立場に立つ人々のために働く弁護士になる、と堤さんが司法試験を目指しているとき、都子さんは一足早く法律事務所に事務員として勤務し、生活を支えました。

「何よりも人間が好き」(都子さんの言葉)でかつ音楽を愛する二人だったので。



堤さんと都子さんは日フィル協会に入っていて、さまざまな集まりにそろって参加し、楽団のメンバーとも親交がありました。川崎絵都夫さんは日フィルのために作曲活動をしていて関係が深く、川崎祥悦さんはその父という関係です。

都子さんたちが行方不明になったあと、「さがす会」「救う会」がつくられ全国を行脚して一家の探索活動を行いました。その際、日フィルもチャリティコンサートなどで協力しています。遺体で発見されるという結果になりましたが、その後、日フィルのメンバーが中心になって、「坂本弁護士一家巡礼の旅コンサート」を行っています。新潟、富山、長野と3人の慰霊地を訪れて、慰霊碑での追悼演奏、施設での演奏などを行っています。

それに呼応する形で、現地魚津で実行委員会をつくり企画準備してきたのが「都子さんメモリアルコンサート」です。

今回、実行委員の1人が都子さんの詩に曲がついていたら歌いたい、と言ったのがきっかけになり、その希望が、この図の下から上に伝わっていきました。

こうしたつながりのなかで、川崎祥悦さんが、深い共感をもって、心をこめて作曲したのが「あなたの心に」です。

川崎さんは次のように語られました。

「最初に詩を読んだとき、赤やだいたいや、いろいろな色の毛糸がやたらでてきて、何だこれは？と思いました。しかし、結びたいんだ、あなたの心に、というフレーズががっつんと心に響きました。頼まれたから作った曲ではありません、作らなければならないと思った。都子さんがたびたび傍らに現れました。彼女と対話をくりかえしながら作った曲です」

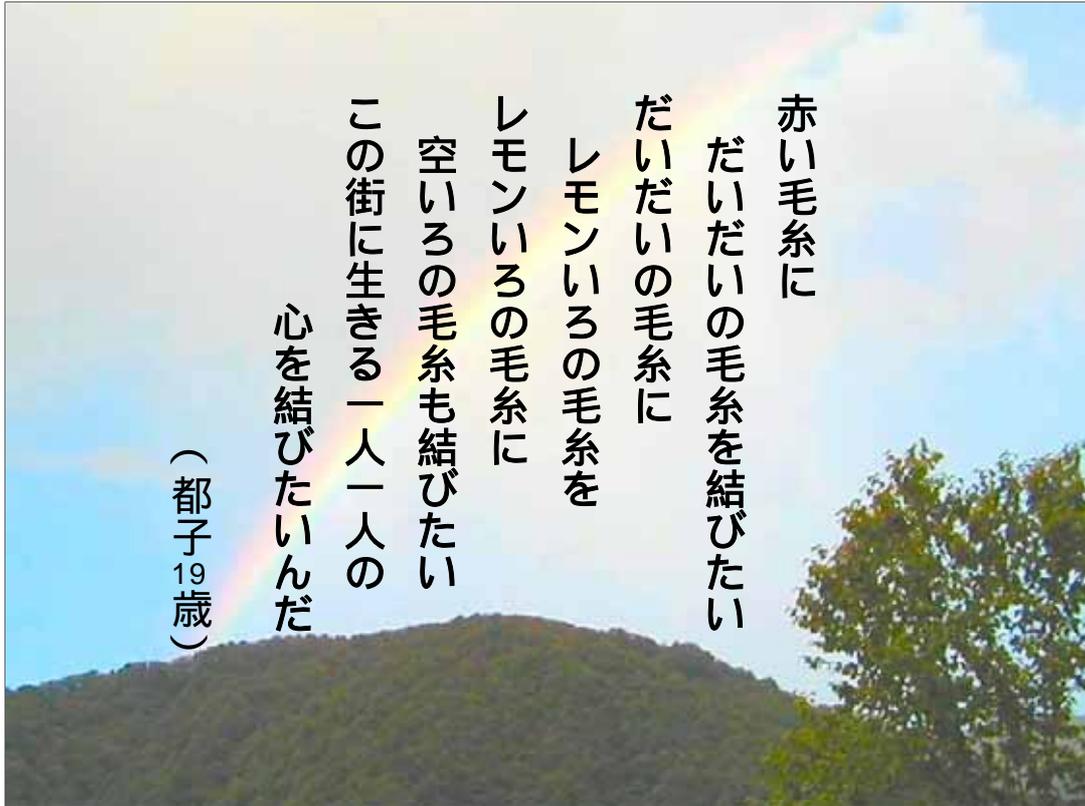
1999.8.18 僧ヶ岳林道の慰霊碑



5年前、第1回のメモリアルコンサートの前日、僧ヶ岳林道の慰霊碑前での演奏風景です。ヴァイオリンとフルートは、それぞれ堤さん都子さんが生前使っていた楽器で演奏しています。ヴァイオリンは松本克巳さん、フルートは大平記子さん、「譜面台」は地主の山本清作さんのお孫さんです。

この日、山に向うときには雷鳴がとどろく土砂降りでした。しかし、僧ヶ岳林道にはいるころには晴れてきて、鮮やかな二重の虹が現れました。この演奏をしている、まさにそのとき右手におおきく虹がかかってました。まるで、虹がいっしょに音楽を楽しんでいるかのようでした。

慰霊碑の3つの輪は、ひとつの石から削りだしてあります。龍彦ちゃんをあらわす小さな輪のほかのふたつには小さなへこみがあります。「人間誰も完全ではなく、不完全だからこそ人間味があり、また支え合いが必要なのだ」という意味のデザインなのだそうです。



赤い毛糸に

だいだいの毛糸を結びたい

だいだいの毛糸に

レモンいろの毛糸を

レモンいろの毛糸に

空いろの毛糸も結びたい

この街に生きる一人一人の

心を結びたいんだ

(都子 19歳)

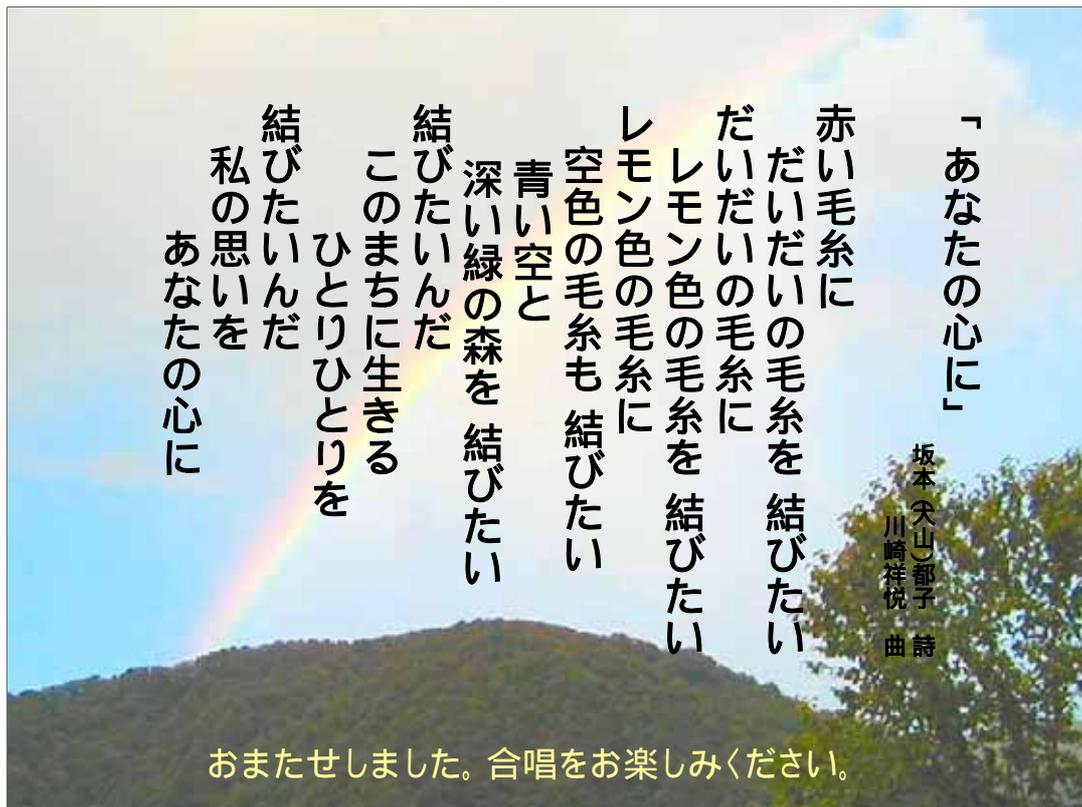
さきほどからスライドのバックに使っていた写真は、そのときの虹です。慰霊碑に向って右側、僧ヶ岳につらなる尾根と、林道の脇にたっているヒツバカエデの樹が写っています。

虹の下での演奏。すばらしい演奏でした。しかし、それだけではありませんでした…

これは、慰霊碑の裏側に刻まれている都子さんの詩です。

これを読んだとき、ほんとうに心底びっくりしました。赤、だいたい、黄色…バックの虹の色をみてください。虹に託して、人と人の絆を求める詩です。都子さんが虹になって現れた！と思いました。

ご両親の話では、都子さんが19歳のときの日記に書かれた詩で、じつは一部を削ってあるのだとのことでした。短くするために削ったのではありません。「深い緑の森」という一節があり、遺体発見現場の風景にあまりにも似ていて、きっと見るたびに切なくなるから、慰霊碑にその文字を刻み込む気になれなかったのだ、とおっしゃいました。



これが、都子さんの原詩です。合唱曲では後から3行目の「結びたいんだ」が省かれています。「作曲上の視点から略させていただきました」(川崎祥悦)とのことです。

人と人の心の絆を、人と自然との共生を求めよう。そんな思いを、あなたの心に伝えたい。若き日の都子さんが、みずみずしい感性で訴えています。

子どものとき、若いときに、まっすぐな心をもってても、それを貫くことはとても難しい。ともすれば、あっちでぶつかり、こっちでぶつかり、くじけたりめげたり、曲がりに曲がって、ぐるぐる巻きになってしまいます。しかし、都子さん、堤さんは、まっすぐな生き方を貫いた。まっすぐに行った先でオウムとぶつかり、事件に巻き込まれてしまいました。まっすぐに生きる人を、なぜ守れなかったのか、支えられなかったのか、無念に思います。(それどころか足元をすくうマスコミもあった)

亡くなった人を悼み、この事件を風化させないためにはじめたメモリアルコンサートですが、くわえて、人と人の絆・人と自然の共生を訴えた都子さんの思いを、その生きた証を語り継ぎ、この歌を歌い継いでいきたいと思えます。

今回のメモリアルコンサートに先立って、慰霊碑前で追悼演奏をしたとき、大山やいさん(都子さんのお母さん)が語った言葉が印象的でした。

「いままで、哀しみと怒りで涙を流してきました。泣くのはもうやめます。今日の涙は感激の涙です」

お待たせしました。合唱をお聞きください。ピアノは宮本則子さん、指揮は古川敏子さん、ひとりひとり紹介する余裕がありませんが、すすんで協力してくださった有志のみなさんに感謝します。よろしく願います。